

新製品開発におけるフロント・エンド・ローディング ‘技術の探求’

— 2030年の技術 —

(株)ジヨンクエルコンサルティング 落合 以臣

A Front End Loading in New Product Development

‘Exploration of technology’

-Technology of 2030-

Shigemi Ochiai, Jonquil Consulting Inc.

Keywords:企画・可視化・定量化・データベース・改善・改良・トレンド予測・人工知能
ご挨拶

新年明けましておめでとうございます。本年は、2030年の技術と題して“新製品開発におけるフロント・エンド・ローディングと技術”との関係を深く追求してみたいと思います。宜しく願い申し上げます。

課題の提起

- 製品開発におけるフロント・エンド・ローディングは、大雑把に申し上げれば、製品開発の企画の段階から上市までの道程を可視化・定量化して、開発すべき機能、それに伴う要素技術の難易度が高ければ前もって軽減する方策を立て、スケジュールが押し詰まった段階で露呈するリスクを未然に防ぐ方法といえます。
- そこには、蓄積された技術やノウハウがデータベース化され、あるいはそれぞれの開発エンジニアの脳内に存在しているといえます。しかしながら、脳の細胞でいえば人間はおおよそ140億個の神経細胞を持っているといわれ、140億個の神経細胞のうち3%ほどしか使っていないといわれています。天才と呼ばれる人たちでも6~7%ほどだそうです。
- 同様に、企業内にも開発に関する数多くのデータベースが存在し、繁盛にPCと向き合い開発システムを利用しているようですが、実のところデータベースとのやり取りを見る限り、ほとんどアクセスしていないといえます。
- 上市される新製品をみても、確かにラインアップはされているもののよく観察しますと、広告宣伝に言いくるめられ、新機能に値する技術はほとんど発見できないように思います。

解決策の提案

- 売上の95%を占める改善・改良型開発に起因すると思われるが、実際のところ企業の研究開発のあり方に大きな問題があると考えられます。
- つまり、研究開発のスケジュールが、製品開発のスケジュールの中に位置づけられているために、研究開発そのもののスケジュールに合致しないといえるからです。また、全方位的に繰り広げられてきた研究開発を“集中と選択”という大義名分のもとに、跡形もなく消してしまうということです。
- 2030年に向けての製品は、きらっと光る機能と技術を兼ね備えたものが台頭すると思われます。
- それは、トレンド予測から将来を見据えた技術を見つけ出すことだといえます。そのひとつに、人工知能の活用があるのではないのでしょうか。2月号で、詳細に述べたいと思います。

この JQ International Review が、愛読される方の背中をさらに押すことができれば幸いです。